

## 問題作成方針に関する検討の方向性

○これまでの問題作成方針で示されている、「科学の基本的な概念や原理・法則に関する深い理解を基に、基礎を付した科目との関連を考慮しながら、自然の事物・現象の中から本質的な情報を見いだしたり、課題の解決に向けて主体的に考察・推論したりするなど、科学的に探究する過程」を引き続き重視しつつ、**新学習指導要領に示されている、各科目で育成することとされている資質・能力を一層重視したものとなるよう検討する。**

[令和7年度試験の問題作成の方向性、試作問題等 | 大学入試センター \(dnc.ac.jp\)](https://dnc.ac.jp) (2022.11.9、大学入試センター)

### 【問題作成方針のポイント】

・令和7年度の問題作成方針では「理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行うことなどを通して、」自然の事物・現象の中から本質的な情報を見いだすことを重視することが追記された。



## 問題作成方針

### 【令和7年度】

○科学の基本的な概念や原理・法則に関する深い理解を基に、**理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行うことなどを通して、**自然の事物・現象の中から本質的な情報を見いだしたり、課題の解決に向けて考察・推論したりするなど、科学的に探究する過程を重視する。

問題の作成に当たっては、基本的な概念や原理・法則の理解を問う問題とともに、観察、実験、調査の結果などを数学的な手法等を活用して分析し解釈する力を問う問題や、受験者にとって既知ではないものも含めた資料などに示された事物・現象を分析的・総合的に考察する力を問う問題などを含めて検討する。その際、基礎を付した科目の内容との関連も考慮する。

### 参考【令和6年度】

科学の基本的な概念や原理・法則に関する深い理解を基に、基礎を付した科目との関連を考慮しながら、自然の事物・現象の中から本質的な情報を見いだしたり、課題の解決に向けて主体的に考察・推論したりするなど、科学的に探究する過程を重視する。

問題の作成に当たっては、受験者にとって既知ではないものも含めた資料等に示された事物・現象を分析的・総合的に考察する力を問う問題や、観察・実験・調査の結果などを数学的な手法等を活用して分析し解釈する力を問う問題などとともに、科学的な事物・現象に係る基本的な概念や原理・法則などの理解を問う問題を含めて検討する。

なお、大学入試センター試験で出題されてきた理科の選択問題については、設定しないこととする。